

WRI News Letter No. 61

1978年7月5日・戦争地坑者インター日本部 大阪市阿倍野区旭町2-12-2(ウリ)

6.23 沖縄敗戦記念集会がらび

F&K

6・23 沖縄敗戦記念集会参加のため上京した。一年ぶり。大阪も混んでるけど、東京の混み方はアタがらかう。考えてみれば日本の全人口のうち十人に一人は東京に住んでるんだからひどいもんだ。

で、6・23の集會に集まった人はどれくらいかというと、東京都の人口の五十万分の一。みわたすと、意外と若者が少い。半数は四十代以上。ウリの仲間二十人近く参加して、いじのがめだつほど。

ところで、6・23は沖縄敗戦の日。8・15は日本本土終戦の日。私は永い間、ハ・一五しか知らなかった。「敗戦」と「終戦」のちがいは、沖縄民間人の三分の一が戦南で殺されたのに、本土は空襲こそあったが、戦南では誰も死ななかった。つまり沖縄の敗戦は本土終戦のためのタマシのタネだった。この関係は、いまもあらゆる面で続いている。たとえば、六・二三を記念するものは日本中ではおそろしくこの集會しかないだろう。

この意味でも私は何とか参加しなければ、と思ったのだ。

集會は、例のごとく各団体からの連帯のあいさつ……たいくつなどというなかれー主催の中心になった久米島訴訟の会の努力の跡をみよう。ー

それは、反戦兵士の会の戸坂さん、三里塚戸村さん郡司さん、七十年代をゆく会の牧師さん、アムネスティの川田さん、カラフト委の末さん。全国住民運動交流会の宮川さん。

沖縄CIS闘争の大城さん、奄美枝手久闘争、忍草母の会、都労活……

ウリエスレター、送付希望の方へ、宛名記入及び切手貼付の封筒の6.23(投票)を必ずお送り下さい。

今年の何よりの持ちようは、このようにいろんな運動がずらっとならんでいることだ。このことの意味は重大だ。つまり、これらの運動が、(見果した分界)今までほとんど個別にばらばらなままだったのが、ともかくいつ

せいに井備者としての名を出し、各々がアピールするということ、運動向のつながりのカ一歩をつくり出そうとしている。もっとも、それはまだ集会でアピールするだけにすぎない。だから、これからさらに一歩進んだ「連合」へと実質をつくり出すかどうかはわからない。その可能性はもっばら今回参加した運動体、そして参加者の一人一人が、このことをどう受けとめるかにかかっているわけなのだ。

☆ ☆ ☆

宋さんの発言は、三里塚で大韓航空の客が火災で亡くされた事件についてだった。

「この襲撃は朝鮮人に対する武力攻撃である」と私はうけとめる。犯人は今のところセクトか、あるいは敵の謀略かわからないが、(とにか)反権力を叫ぶものが持つ武器によって朝鮮人の血が一滴でも流されること

は許されない。朝鮮人は、日本人にとって聖域に属するものだ。私は思っている。」と云いきった。

戸村一作さんの発言は、これに引かれて、「三里塚闘争は、日本人が戦争中に行つた反省をふまえてやっている闘争である。こちら側から朝鮮人に対して攻撃をしかけるなどということは決してありえない。しかし三里塚闘争の現実として敵は民族を向わない。敵は自民党政権だけではなく、市民社会のその無思想性に対し、ときには市民社会をも敵とするゆいとならざるをえないときもある。南港の白(仮田から)飛行機は新婚旅行にグアムに飛んでいったのだ。キーセン観光にも使われている。私はこの時ライフルを持っていたらあの飛行機を撃ち落してやりたいと思つた。三里塚のこのようなむざかしい多様な問題をかかえたゆいをみなさん一人一人に考えてもらいたい。」

この戸村さんの意見に対して、沖繩出身で、いま三里塚にはいつているMさんは、「私は宋さんに同感だ」といった。Mさんがこのニュースを聞いたと

き、ちやうどそばにいた二人は「やった、」とさげ
んだ。Mさんは「どうしてえ、」と腹が立ったとい
った。

柳庄されつづけてきた人たちと、柳庄してきた創
とは、決定的に感覚がちがつところがある。被柳庄
者の側に立つとしていても、自分は曲っているん
だということ、むしろ感覚が鈍摩しているところ
もある。未さんやMさんの直感的指摘は、私にとっ
て重要なものだった。

☆ ☆ ☆

集会のおわりころ、ちよつとしたトラブルがあっ
た。高村順一さんがだつてしゃべりだした。「私は
もう一切運動から手をひく云々」、司会者が「これ
は個人的な問題があるので」と、マイクであっか
ぶせて制止しようとした。私は、このよしあしは
べつに、集会が混乱しようともしゃべりたい人には
しゃべらせる。問題の是非はみんなに判断させるこ
というやり方をとりたい。形式などいくらまをまった
って本当はどつしよつもないのだから。そこかしら

か運動の力はでてこないと思っている。

江川允通さん 釈放!

当日の会場に、おもいがけず江川允通さんがみえ
た。長身瘦削、長髪に濃い色眼鏡、そのスマートさは
すこしもかわらない。六十七年ぶりだった、すぐ
判った。何より若々しく、一応は元気そうだった。
数日前、判決があつて三年半。未決通算というわけ
で、その日釈放となつたらしい。「ごくろうさんで
した」とも云えず、何か心にあふれながら言葉がな
くてごまかされた。ともかく、ともかく無事の出所
が心からうれしい。いろいろウリのゆかりで一しよ
に心配してくれた仲間、このことをおしらせする。

反原発新聞

毎月15日発行・年間購読料

二〇〇〇円(送料)一部三〇〇円。反原発運動全口連絡

紙。ウリで20部引受けています。年内予約して下さい。
いま申とみは9部になりました。

事務所より

7月6日、7時へアメリカの反核運動の現状と非暴力直接行動へ 柏木宏行さんを囲んで。(詳細、同封別紙参照)。運動者の半分が女性だという新しい波がいま大平洋の向うかう打ちよせてきている。アメリカの運動に参加してうけとめられた柏木さんの経験をほくら自身のものであるために、ぜひ、場所。神戸六甲道(国鉄下車)徒歩4分。エンカウントースクール。電話078-221-3198

原発関係の新肉切抜きをお願ひ

たとえばこの前、浜岡原発で核燃料廃棄物?かなかの管理がメチャメチャだということも、内部から告発があつて大さわぎだつたとか。ところがこのニエース、多分静岡地方の新肉なら大きいのつたと思ふのだが、大阪や東京など、片隅の一行も報道されない。ひんぱんに起る事故などもその通り。報道規制がしかれていて、高地だけにとめられている。そこでウリの仲間におねがい。これは大阪の新肉にの

つてるだろうな、というものでも、その取扱い方も

見出しが違つて参考になる。あなたがとつてる新聞に

(原発火災に原因があるもの)

川上記事でも見のがさず、ぜひ切めて面刺でもウリ事務所へ送つて下さい。その他原発現地近くの方は、原発誘導に歯する汚私や、作業員の行動のうわさなど肉きこんだら、一行でも二行でもちよつとおしらせ下さい。期限なしが理想ですが、とりあえず七月八月の二ヶ月間を、新肉切抜き月間として、協力して下さいませんか。いまそれらの切抜きをかつつておもしろいことを考えています。

★ 久しぶりの上京でたくさんの人にあつた。そしてとくにSさんもうひとりSさん、KさんTさん

Nさんにおせやになつた。すこしくたびれて例えは自主生産や救連へよろうと思つたが、つい果せなかつた。それから29日はNDの会、26日は三里坂の救援会、27日は良心的軍事委員の会、更正決定異議申立打合せ、29日南西新空港：30日原発連集會：とついで。19日金沢で暴行論ノート読書会に参加の予定。その前日8日七尾火電現地で全国交流集會がある。